

令和5年度

動物実験に関する自己点検・評価報告書

国立大学法人京都大学

2024年7月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定）（最新改正：令和2年9月29日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（以下「飼養保管基準」という。）と文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」という。）に則って、京都大学における動物実験の実施に関する規程（以下「学内規程」という。）が定められており、必要に応じて最新の情報を反映させるため適宜改正して運用されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学における動物実験の実施に関する規程（平成19年2月5日達示第25号制定） ・部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・全学動物実験委員会名簿 ・部局動物実験委員会名簿
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 飼養保管基準及び基本指針に適合した動物実験委員会が置かれている。 全学委員会及び部局委員会の大半が、基本指針に定める3種のカテゴリーの委員によって構成されている。 全学委員会及び部局委員会の開催時には、基本指針が定める3種のカテゴリーの委員が必ず審議に参加するよう日程調整、参加方法を考慮している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験の実施に必要な動物実験規程等及び各種申請書様式等が適正に定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規等 ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程 ・ 京都大学組換えDNA実験等安全管理規程施行細則 ・ 京都大学化学物質管理規程 ・ 京都大学における放射性同位元素等の規制に関する規程 ・ 京都大学における病原体等の管理に関する規程
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理に注意を要する動物実験の実施に関連する様式や手続きを整備している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ■ 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学における動物実験の実施に関する規程 ・ 部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管施設等の設置と廃止に関する要件が規程等に定められており、確認に必要な各種書式等も適正に定められている。また、飼養保管施設には標準作業手順書として部局動物実験の実施に関する要項、内規、基準、マニュアル等が定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

・ 部局相互で現地調査（ガバナンス等に関するヒアリング及び飼養保管施設・実験室の視察）を実施し、推奨する管理方法や注意すべき点を共有した。 ・ 国立大学法人動物実験施設協議会の公開している雛形を参考に、規程の見直しを検討した（令和6年度一部改正の予定）。 ・ 動物実験計画書等の申請書類を WEB 上で申請し、審査も行うことができるシステム導入を計画し、導入の準備を開始した（令和8年より全部局で稼働予定）。
--

II. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（令和5年7月31日） ・ 京都大学動物実験委員会議事要旨（令和6年3月5日）
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 京都大学における動物実験の実施に関する規程等に基づいて、学長の諮問機関として委員会を開催し、関連事項に関して審議した。 ・ 規程の改正案について審議した。 ・ WEB申請システムの導入について共有した。 ・ 動物実験計画書や施設の変更届の記載について意見交換し、適切な記載方法を共有した。 ・ 使用期限が切れた麻酔薬についての扱いを共有し、Q&Aを改訂した。
4) 改善の方針、達成予定時期 ・ 規程の一部改正（令和6年度予定） ・ WEB申請システムの導入（令和6年度以降）

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 ・ 動物実験計画承認報告書 ・ 動物実験結果報告書 ・ 自己点検報告書（動物実験実施状況） ・ 事故報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が適正に実施されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

<p>1) 評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <ul style="list-style-type: none">・動物実験計画承認報告書・動物実験結果報告書・自己点検報告書（動物実験実施状況）・動物実験施設飼養保管マニュアル・緊急時対応マニュアル・逸走時対応マニュアル・緊急連絡先・事故連絡票等
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>法令に適合した動物実験実施状況であることを確認した。以下の針刺し3件、動物による咬傷1件、有害物との接触1件、飼育室での転倒1件、合計6件の事故等の報告があったため。</p> <p>内訳：医学研究科 針刺し2件、動物による咬傷1件、有害物との接触1件 ヒト行動進化研究センター 針刺し1件、飼育室での転倒1件</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守・必要があれば見直しを行い、予防策等を周知徹底する。</p>

4. 実験動物の飼養保管状況

<p>1) 評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <ul style="list-style-type: none">・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況）・自己点検報告書（実験室管理状況）・動物実験施設飼養保管マニュアル・緊急時対応マニュアル・逸走時対応マニュアル・緊急連絡先

<ul style="list-style-type: none"> ・事故連絡票等
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>ヒト行動進化研究センターで、動物の逸走や従事者の事故に繋がるヒヤリハットが1件あったため。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>各部局にて制定されている行動指針やマニュアル等の遵守を徹底する。逸走防止策として、作業手順の見直し、施設の構造の改善、逸走防止装置について見直し等を実施し、強化を図る。</p>

5. 施設等の維持管理の状況

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼養保管施設設置承認報告書 ・実験室設置承認報告書 ・自己点検報告書（飼養保管施設管理状況） ・自己点検報告書（実験室管理状況）
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>施設の設置時に規程が求める設置基準を満たしていることを委員会が確認しており、自己点検報告書（飼養保管施設管理状況、実験室管理状況）の自己点検報告書の提出によって、適正に維持管理されていることを把握している。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>該当せず。</p>

6. 教育訓練の実施状況

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育訓練資料・スライド ・京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講履歴 ・京都大学動物実験教育訓練 e-Learning 受講修了証 ・令和5年度京都大学実験動物管理セミナー受講履歴

<p>京都大学における動物実験教育訓練実施状況（令和5年度） （e-Learning 受講者数 971 人、それに加え、部局独自の講習会をヒト行動進化研究センターで3回開催 受講者数11人） 別紙1のとおり。</p> <p>令和5年度京都大学実験動物管理セミナー開催 「実験動物導入、飼育管理（器材、飼料、飲水、エンリッチメント）、記録管理」、「米国獣医学会（AVMA）安楽死ガイドライン」、令和6年3月22日（金）、講師：北海道大学 森松正美 教授、受講者数89人</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 教育訓練の実施記録等によって基本指針に則した教育訓練が実施されていることを確認した。 また、実験動物管理者に日本実験動物学会の実験動物管理者等研修会受講を推奨した。また本学の京都大学実験動物管理セミナーを開催し、専門情報修得の機会を設けた。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。</p>

7. 自己点検・評価、情報公開

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検の対象とした資料 ・京都大学動物実験に関する自己点検・評価報告書、動物実験に関する検証結果報告書、「動物実験に関する情報公開」のホームページ。 https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/rule/ethic/arcku</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 大学のホームページに各年度の自己点検・評価報告書及び外部検証の結果報告書をはじめとして、京都大学における動物実験に関する情報を公開している。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。</p>

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

1) 京都大学における第6条第1号、第2号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・第6条第1号に掲げる委員：教授15名、准教授3名
- ・第6条第2号に掲げる委員：教授1名
- ・第6条第3号に掲げる委員：特定教授2名

別紙2のとおり。

2) 京都大学における第6条第4号に掲げる動物実験委員会委員の構成

- ・動物実験に関して優れた識見を有する者：教授12名、准教授3名、特定教授1名
- ・実験動物に関して優れた識見を有する者：教授3名
- ・その他学識経験を有する者：准教授1名、特定教授1名

別紙2（役割欄）のとおり。

3) 部局動物実験委員会の構成（全部局の合計数）

京都大学における動物実験の実施に関する規程第9条による部局動物実験委員会

教授62名、特定教授3名、准教授47名、特定准教授2名、講師13名、特定講師1名、
助教21名、産学共同講座教員1名、その他8名（技術職員1名、動物実験施設長1名、事務職員
4名、学外者2名） 合計158名

4) 京都大学における動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書の集計について
別紙3のとおり。

5) 動物種ごとの飼養数・実験動物使用数の集計について
別紙4のとおり。

動物実験教育訓練実施状況（令和5年度）

部局名	全学共通 e- Learning	左記以外の 講習会 参加人数	学共通e-Learning以外に開催した場合 の研修実施日・実施回数
文学研究科	2	0	
理学研究科	39	0	
医学研究科	331	0	
薬学研究科	63	0	
工学研究科	34	0	
農学研究科	150	0	
人間・環境学研究科	22	0	
情報学研究科	6	0	
生命科学研究科	47	0	
化学研究所	0	0	
医生物学研究所	41	0	
複合原子力科学研究所	34	0	
iPS細胞研究所	118	0	
野生動物研究センター	7	0	
ヒト行動進化研究センター	62	11	3回実施（6/27、9/11、11/8）
総合博物館	0	0	
フィールド科学教育研究センター	0	0	
国際高等教育院	0	0	
環境安全保健機構	1	0	
高等研究院	14	0	
合計	971	11	

京都大学動物実験委員会委員名簿

令和5年4月1日

		所 属	職 名	役割※	専門分野
1	1号	文学研究科	教授	①	実験心理学
2	2号	法学研究科	准教授	③	法理学
3	1号	理学研究科	教授	①	動物行動学・爬虫類学・自然史学
4	1号	医学研究科	教授	②	実験動物学・発生工学
5	1号	薬学研究科	准教授	①	薬剤学
6	1号	工学研究科	教授	①	先端医工学
7	1号	農学研究科	准教授	①	畜産資源学
8	1号	人間・環境学研究科	教授	①	運動医科学・内分泌代謝学
9	1号	情報学研究科	教授	①	生物環境情報学分野
10	1号	生命科学研究科	教授	①	内分泌代謝学
11	1号	化学研究所	教授	①	環境物質化学
12	1号	医生物学研究所	教授	②	実験動物学、分子生物学
13	1号	複合原子力科学研究所	教授	①	放射線腫瘍学、放射線生物学
14	1号	i P S細胞研究所	准教授	①	整形外科学 / 発生生物学
15	1号	野生動物研究センター	教授	①	比較認知科学
16	1号	総合博物館	教授	①	動物系統分類学
17	1号	フィールド科学教育研究センター	教授	①	魚類心理学
18	1号	ヒト行動進化研究センター	教授	②	ウイルス学・実験動物学
19	3号	国際高等教育院	特定教授	①	システムウイルス学
20	1号	環境安全保健機構 放射線管理部門	教授	①	細胞生物学・生物工学・放射線安全管理学
21	3号	研究推進部 研究規範マネジメント室	室長	③	研究倫理・研究規範

※委員の役割

- ①動物実験に関して優れた識見を有する者
- ②実験動物に関して優れた識見を有する者
- ③その他学識経験を有する者

動物実験の実施における自己点検・評価に関する報告書集計表（令和5年度）

	動物実験計画書の審査のまとめ						動物実験 従事者数	飼養保管 施設の設 置状況	飼養保管 施設から 独立した 実験室
	許可件数				改訂後 許可件数	不許可・ 取下げ件 数			
	新規	変更	継続	合計					
文学研究科	7	0	12	19	1	0	22	2	3
理学研究科	7	18	12	37	6	0	109	13	11
医学研究科	121	48	261	430	100	2	1,689	17	82
薬学研究科	18	12	19	49	14	0	104	6	16
工学研究科	1	11	2	14	13	0	99	5	1
農学研究科	36	15	70	121	35	0	1,281	14	23
人間・環境学 研究科	1	1	9	11	0	0	34	2	4
情報学研究科	2	0	5	7	0	0	32	3	2
生命科学研究科	7	2	18	27	0	0	257	8	15
化学研究所	0	0	0	0	0	0	0	1	1
医生物学研究所	28	46	87	161	16	3	204	14	34
複合原子力科学 研究所	14	0	39	53	16	0	144	4	11
iPS細胞研究所	41	41	51	133	59	2	345	2	24
野生動物研究 センター	2	1	18	21	0	0	197	2	0
総合博物館	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フィールド科学教 育研究センター	7	0	0	7	0	0	35	1	1
ヒト行動進化研究 センター	34	23	51	108	98	1	637	1	29
国際高等教育院	1	0	0	1	0	0	2	0	1
環境安全保健機構	1	2	7	10	10	0	58	1	3
高等研究院	0	8	3	11	4	0	49	3	5
合計	328	228	664	1,220	372	8	5,298	99	267

主要な飼養保管施設の名称：医学研究科附属動物実験施設、医生物学研究所附属再生実験動物施設、iPS細胞研究所附属動物実験施設、ヒト行動進化研究センター人類進化モデル研究センター

動物種ごとの飼養数（年間平均飼養数）（令和5年度）

（頭数）

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境学研究科	情報学研究科	生命科学研究科	化学研究所	医生物学研究所	複合原子力科学研究所	iPS細胞研究所	野生動物研究センター	総合博物館	フィールド科学教育研究センター	ヒト行動進化研究センター	国際高等教育院	環境安全保健機構	高等研究院	合計
マウス	0	29	54,066	7,745	409	403	177	0	2,453	0	12,149	433	16,289	0	0	0	25	0	44	1,715	95,937
ラット	0	4	3,023	6	0	6	3	0	0	0	35	22	19	0	0	0	59	0	0	0	3,177
ネズミ	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
トゲマウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
モルモット	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
ハムスター	0	0	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69
デグー	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
ウサギ	0	0	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
イヌ	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
ブタ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5
ヒツジ	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
ウシ	0	0	0	0	0	110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110
サル類（類人猿除く）	16	0	97	0	0	0	8	0	0	0	19	0	13	0	0	0	1,173	0	0	0	1,326
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55	0	0	14	0	0	0	69
鳥類	22	412	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	442
爬虫類	0	305	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	305
	50	761	57,330	7,751	409	533	188	0	2,453	0	12,214	455	16,324	59	0	0	1,271	0	44	1,715	101,557

年間平均飼養数 延べ飼養数÷365日（少数点以下切り捨て）

動物種ごとの実験動物使用数（令和5年度）

(頭数)

動物種名	文学研究科	理学研究科	医学研究科	薬学研究科	工学研究科	農学研究科	人間・環境 学研究科	情報学 研究科	生命科学 研究科	化学研究所	医生物学研 究所	複合原子力 科学研究所	iPS細胞研 究所	野生動物研 究センター	総合博物館	フィールド科 学教育研究 センター	ヒト行動進 化研究セン ター	国際高等教 育院	環境安全保 健機構	高等研究院	合計
マウス	0	167	90,708	23,262	4,358	3,933	17,125	0	4,670	0	43,322	3,018	14,818	0	0	0	124	0	14,085	9,625	229,215
ラット	0	620	9,618	323	7	79	202	0	0	0	537	161	165	0	0	0	380	0	0	0	12,092
ネズミ	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
スナネズミ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
トゲマウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
モルモット	0	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
ハムスター	0	0	265	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	271
フェレット	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
デグー	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
ウサギ	0	0	208	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	208
イヌ	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50
ブタ	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	49
ヒツジ	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
ウシ	0	0	0	0	0	148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	148
サル類（類人 猿除く）	44	0	87	0	0	0	9	0	0	0	22	0	2	0	0	0	2,787	0	0	0	2,951
類人猿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	266	0	0	160	0	0	0	426
鳥類	17	15,100	3,620	0	0	63	0	0	0	0	25	0	0	90	0	0	0	0	0	0	18,915
爬虫類	0	1,290	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,290
	68	17,201	104,661	23,585	4,365	4,231	17,336	0	4,670	0	43,963	3,179	14,988	356	0	0	3,451	0	14,085	9,625	265,764

動物実験使用数（例）1頭(匹)を2回の実験に使用したとき2頭(匹)と計上（延べ使用数）